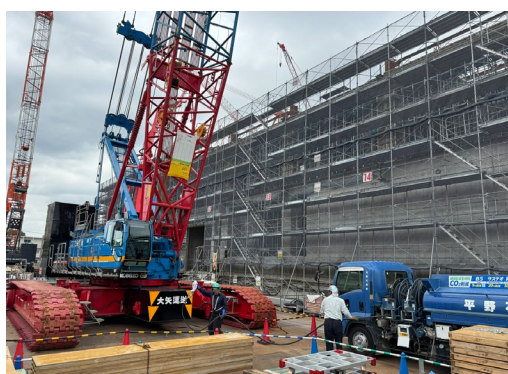


2025 年 11 月 17 日
株式会社竹中工務店

建設現場における HVO 高混合軽油「サステオ」の実証実験を開始 建設重機のエンジン性能・操作性への影響を検証

竹中工務店（社長：佐々木正人）は、建設現場内の燃料使用で排出される CO₂ 削減に向け、次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を建設重機に用いた実証実験を開始しました。実証実験は、東京都内の建設現場（江戸川清掃工場建替工事）で行い、株式会社ユーグレナ（社長：出雲 充）が開発した「サステオ」の性能を検証します。「サステオ」は、HVO（Hydrotreated Vegetable Oil：水素化処理植物油）を 51%混合した軽油です。

本実証実験は、東京都が助成する「令和 6 年度新エネルギー推進に係る技術開発支援事業」における「新規 HVO 混合燃料の開発及びサプライチェーン構築とその社会実装」として採択された取り組みの一つです。ユーグレナと連携し、竹中グループの株式会社朝日興産（社長：宮本靖雄）と平野石油株式会社（社長：平野賢一郎）の 2 社が、江戸川清掃工場の建設現場に同燃料を供給。この現場で建設重機に長期間使用することで、エンジン性能や操作性等への影響がないことを実証するとともに、燃料供給体制等の運用上の課題解決に取り組めます。



建設現場での導入状況

■「サステオ」（HVO51%混合軽油）について

ユーグレナが開発した「サステオ」は、軽油規格に適合しています。従来の HVO100% 品は密度が軽油と比べて低いことから、地方税法上、軽油が燃料タンクに残った状態で継ぎ足すことができませんでした。「サステオ」は、軽油への継ぎ足しが可能なため、頻繁に建設現場間を行き来するラフテレーンクレーンのように公道を走行する建設重機への活用が容易になります。

■今後の工事現場から排出される CO₂の削減に向けて

竹中工務店は、「環境戦略 2050」※¹に基づく「2050 年カーボンニュートラル」の実現に向けた取り組みを進めています。工事において排出される CO₂のうち、スコープ 1※²が約 75%、スコープ 2※²が約 25%を占めています。竹中グループは 2030 年までにスコー

ブ1におけるCO₂排出量を32%削減（2019年比）する目標を設定しており、軽油からサステオなど次世代バイオディーゼル燃料に切り替えることにより、32%の削減目標のうち約20%分の削減効果が期待できると試算しています。

竹中グループは、「2030年までにスコープ1+2におけるCO₂排出量46.2%削減（2019年比）」という目標を達成すべく、工事で用いられるエネルギーのグリーン化をはじめ、さまざまな取り組みを推進し、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

※1 環境戦略 2050 : <https://www.takenaka.co.jp/enviro/environment/takenakagv/>

※2 スコープ1：燃料の使用など、直接排出

スコープ2：電力・熱などの使用に伴う間接排出